

後期計画の策定に向けた地域検討会議（第4回）二戸ブロック 会議録

【二戸ブロック：二戸市、軽米町、九戸村、一戸町】

- 日 時：令和2年7月30日（木）10時00分～12時00分
- 場 所：一戸町コミュニティセンター 1階 多目的ホール
- 出席者

① 会議構成員

二戸市関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

軽米町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

九戸村関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

一戸町関係者（資料「出席者名簿」のとおり）

② 事務局（県教育委員会）

県北教育事務所（資料「出席者名簿」のとおり）

県教育委員会事務局（資料「出席者名簿」のとおり）

- 傍聴者：一般5人、報道3人

○ 会議の概要

◆ 議題及び報告事項

1 後期計画策定に向けた意見交換

<意見交換テーマ>

(1) 後期計画の基本的な考え方等について

(2) 後期計画の具体的な取組について

【県教委】

- ・ まず、「後期計画の基本的な考え方等」と「後期計画の具体的な取組」について、事務局から説明させていただき、その後、御意見をいただきたい。

【県教委】

- ・ 資料No. 1「新たな県立高等学校再編計画後期計画（案）の概要」、資料No. 3「地域検討会議等で寄せられた意見の反映状況等」、資料No. 4-1「二戸ブロックにおける地域の産業教育の拠点となる専門高校の整備について」及び資料No. 4-2「校舎制について」に基づき説明。

【藤原 二戸市長】

- ・ 後期計画案については、岩手の高校教育を考える市町村長懇談会から提出された提言書の内容が基本的な考えとなっているものと認識している。地域の未来を支える人材育成や、地域に支えられた高校の在り方等について、概ね提言を踏まえた計画案となっているが、提言のすべての項目について盛り込まれてはいないことから、成案化に向けては、さらなる配慮が必要であると感じている。
- ・ 地元の高校はまちづくりの観点から重要であり、これまで開催された3回の地域検討会議において、福岡工業高校を単独で存続させることについて要望してきたところであるが、後期計画案では一戸高校との統合が示されている。このことについては、福岡工業高校の校舎改築が進められている中、唐突であると感じている。学校の存続に向けては、二戸地区の議長連名による要望書が5月に提出されたところである。
- ・ 福岡工業高校は、地元定着や地域の活力を支える即戦力となる人材育成を推進しており、地域にとって重要な役割を果たす学校である。また、校舎の改築は、教育環境の改善による教育効果の向上に資するものであることから、専門高校としての魅力の向上が期待されているとと

もに、地域唯一の専門高校として、引き続き高いニーズが見込まれている。

- ・ 二戸ブロックには、普通高校、専門高校、総合学科高校が設置されており、概ね、生徒の進路希望や通学に配慮された配置となっている。各学校においては、それぞれの特長を生かした教育活動が行われていることから、地域の実情を十分に考慮し、県北地域の将来を担う人材育成を図り、持続可能なまちづくりを一層推進するため、現状の学校配置の維持を要望する。

【山本 軽米町長】

- ・ 軽米高校の全校生徒数は136名であり、1学年あたりの在籍生徒数は約45人である。今後、現状の生徒数を維持し続けるためには、地元の中学生の大半が入学しなければ難しい状況である。
- ・ 高校教育の質を維持するためには、最低2学級は必要であることから、少人数学級の実現により学級数を確保するとともに、教育の質の維持向上に向けて教員加配をお願いしたい。
- ・ 将来的には、統合を含めた検討もしなければならないと想定しているが、地域の将来の人材育成を念頭に置いた学校配置となるようお願いしたい。

【晴山 九戸村長】

- ・ 1学級校についても地方創生の推進に必要な存在であるものと認識しているが、教員数の不足がこの役割を阻害している要因となっていることが現実問題として顕在化しているのではないかと。
- ・ 県民の教育の機会均等の観点から、私立高校が設置されていない地域にこそ県立高校が必要である。高校は教育機関のみの役割ではなく、地域の資源となるものであることから、地域の状況を把握した上で高校再編に取り組んでほしい。

【県教委】

- ・ 二戸ブロック内の県立高校においても、各市町村から支援をいただきながら、魅力ある学校づくりを推進しているところ。県教育委員会としては、国による普通科再編等の動向に先駆け、今年度から小規模校を対象とした高校の魅力化促進事業を開始し、高校教育のさらなる充実を図ることとしている。

【田中 一戸町長】

- ・ 二戸ブロックで唯一の総合学科高校である一戸高校は、生徒の進路実現及び地域産業の人材育成に貢献しており、特に、福祉関係の事業所から大きな期待が寄せられている。
- ・ 一戸町外からの入学者が多い状況ではあるが、地域の学校であるものと捉え、町外の生徒も対象として教育活動に対する支援を行うこととしている。地域の学校として勉強できる教育環境の構築が行政の責任であると考えている。
- ・ 後期計画の基本的な考え方について、生徒の希望する進路の実現については、そのとおりであると賛同するものであるが、教育の機会の保障と質の保証の両立は難しいことであると感じている。
- ・ 福岡工業高校と一戸高校の校舎制による統合については、実際に統合した場合の学校運営の在り方等について議論を深める必要がある。

【古舘 二戸市商工会専務理事】

- ・ 後期計画案は、産業界にとって明るく前向きな計画であると感じている。
- ・ 二戸地区の高校を校舎制により統合する案であるが、通学支援等の具体的な内容が示されていないことから、今後、統合に関する様々な検討が必要になるものと考えている。

【石倉 新岩手農業協同組合理事】

- ・ 統合について検討するにあたっては、二戸ブロックから他地区の高校に進学する生徒が、直近3年間の平均で86人いることについて、その理由を確認する必要があるのではないか。
- ・ 後期計画策定の趣旨として、地域における学校の役割を重視した魅力ある学校づくりに向けて、地域の社会情勢や産業振興の動向等を踏まえることを示してしているが、このことをしっかりと考えて進めていくべきと考える。
- ・ 福岡工業高校と一戸高校は素晴らしい特色を持つ学校であることから、高校再編にあたっては、これまでの両校のレベルを落とすことなく、生徒が入学したいと考えるような学校づくりを目指してほしい。

【小野寺 (株)アイソニック軽米事業所代表取締役】

- ・ 二戸ブロックから他地区の高校に流出する生徒が多いが、2校を統合することで生徒の流出に歯止めをかけることができるかは疑問である。統合校においては、コース制等により学びの選択肢を増やすなど、さらに特色を高めることが必要である。
- ・ 地域の企業で活躍している福岡工業高校の卒業生は多く、産業界にとっては重要な存在である。統合にあたっては、専門教育を推進するための課題についてきめ細かな検討を行い、地域産業に寄与する充実した学校づくりを進めてほしい。
- ・ 福岡工業高校は駅に隣接しており、県内でも恵まれた通学環境である。このような利便性を有意義に発揮するような提案があってもよいのではないか。

【藤館 九戸村産業関係者代表】

- ・ 1学級校である伊保内高校をはじめ、県内の小規模校を存続させる計画案の方向性については評価できる。
- ・ 小規模校であっても、学校は地域に欠かすことができない資源であることを認めていただいた計画案であると捉えている。

【瀧 (株)一戸ファッションセンター代表取締役社長】

- ・ 北岩手はアパレル業の聖地であることから、地域産業を担う地元の高校に対する産業界の関心は高い。今後においても、地元の地域産業を担う人づくりに取り組んでいきたい。
- ・ 一戸高校では生活文化系列において家庭について専門的に学ぶことができるが、この系列の教育内容をこれまで以上に充実するようお願いしたい。

【野崎 二戸市PTA連合会会長】

- ・ 二戸ブロックには、進学校の福岡高校、地元への就職率が高い福岡工業高校、福祉をはじめ、様々な分野を学ぶことができる一戸高校が設置されており、それぞれの学校には特色がある。また、小規模であっても、伊保内高校、軽米高校の生徒も頑張っているところであり、このような学校の魅力を地域へ発信することで、地域の学校で学びたいと考える生徒を確保する体制づくりが大切である。
- ・ 二戸地区では他地区の高校への進学を希望する生徒が多い傾向にあるが、二戸地区の学校の特色を地区外にもアピールし、他地区の生徒も二戸地区の高校への進学を希望するような仕組みづくりも必要である。
- ・ 小規模校であっても、他の学校との交流等を通じて、コミュニケーション力を高められる教育を推進していくことが必要である。

【菅原 軽米町PTA連合会会長】

- ・ 二戸地区の生徒が他地区の学校に、直近3年間の平均で86名も流出していることから、他地区の学校に進学を希望した生徒の意見を参考にしながら対策を講じるべきではないか。

【山田 一戸町PTA連合会会長】

- ・ 二戸地区においては、福岡高校の商業科、一戸高校の家政科や農業科等が維持できなくなり、総合学科として包摂されてきた経緯がある。少子化の進行する中で、地域の専門学科を維持することは難しいことであり、統合の検討はやむを得ないものと認識している。
- ・ 福岡工業高校と一戸高校を統合することにより、二戸地区外に流出する生徒数を抑える効果を得ることができるかについては、検証が必要である。
- ・ 私立高校は奨学金制度等もあり、そのような制度を活用して受験したいと考える優秀な生徒が増えている。
- ・ 過日開催された福岡高校の体験入学では、地区外や県外の中学生も参加しており、そのような生徒は、福岡高校に入学して、学業や部活動等に取り組みたいと考えているものと推察する。
- ・ 中学生は、自分が入学したい学校を明確に選んでいくが、地域の中に自分にとって魅力のある学校がなければ、当然選択することができない。地域の学びを維持しつつ、それぞれの高校の特長を際立たせるような取組が、今後さらに重要になってくるのではないかと考える。

【鳩岡 二戸市教育委員会教育長】

- ・ 県は県北地域の振興に取り組むこととしていることから、後期計画においては、県北地域の振興に寄与する学校配置となるよう期待している。
- ・ 資料 No. 3 の項目 9 に、他の地域との公平性を考慮した上で具体的な支援策等について検討すると記載されているが、県内すべての地域を一律に考えるのではなく、沿線以外の地域については、教員配置や施設設備の充実等、手厚い配慮が必要である。
- ・ 県内において、単独での特別支援学校が設置されていないのは二戸地区のみであり、新たに設置することを切に願う。二戸市では特別支援教育の整備計画をまとめる段階であり、後期計画における二戸地区の学校配置については、特別支援学校の設置もあわせ、県教委の考え方を伺いたいと考えている。
- ・ 二戸地区の中学生が盛岡市内の学校に進学を希望することは、進路選択の自由であることから、一概に解決することは難しいことと認識している。
- ・ 県教育委員会が私学協会と調整を図り、私立高校の入学者が募集定員を超過することがないよう歯止めをかけなければ、今後も生徒の流出が進んでいくものとする。

【県教委】

- ・ 県全体の特別支援学校の整備計画については、その内容を検討中である。ただいま提案している案は、あくまで現況を踏まえたものである。
- ・ 入学者が募集定員を超過する私立高校があることについて、県内各地の会議等において指摘を受けているところ。県教育委員会と私学協会では、毎年意見交換のための会議を開催しており、そのような場において、県立高校の統合や学級減の状況、地域の意見等について説明をしているところ。
- ・ 今年度から高校の魅力化促進事業を制度化しており、特に小規模校を対象として、県立高校の魅力化に向けた予算措置により取り組んでいるところである。

【菅波 軽米町教育委員会教育長】

- ・ 高校再編に関する基準によると、1学級校において、入学者が2年連続して20人以下とな

った場合には統合を検討することとしているが、生徒数のみで学校の存廃を論じることのないよう、地域や学校の実情に即した柔軟な対応をお願いしたい。

- ・ 少人数学級の導入については、多様な学びの実現や、生徒個々に対応したきめ細かな指導の実現につながることから、教育の質の向上に資するものと考えている。財政的な課題があることは承知しているが、生徒の減少には学級減で対応していくのではなく、少人数学級の実現により学級数を維持し、教員数の確保をお願いしたい。

【岩淵 九戸村教育委員会教育長】

- ・ 地域を担う人材を育成する観点から、1学級校をすべて存続させる後期計画案の考えは良いと思う。一方で、入学者が20人以下となれば統合の対象とする基準の適用については、慎重な検討を要するものとする。
- ・ 1学級校をはじめとした小規模校については、多様な教育活動の実現に向けて教員加配を充実させ、さらに、ICTによる遠隔授業等、新たな取組による教育活動の充実が必要である。
- ・ 県立高校は統合や学級減を行っているが、私立高校が募集定員を遵守するよう是正しなければ、今後、さらに私立高校への入学者が増加していくこととなる。
- ・ 高校再編により、地域の県立高校がどのように素晴らしくなり、地域にとって希望となるかが中学生に伝わらなければ、統合校の入学者を確保することは難しい。校舎を新築して、これからの時代に対応できる教育を実践していくことを明確に示していかなければならない。

【中嶋 一戸町教育委員会教育長】

- ・ 二戸地区の中学生のうち、一定数が私立高校を含めた盛岡市内の学校へ進学を希望している。第一希望を私立高校とする生徒や、盛岡市内の県立高校が不合格であった場合、私立高校に入学するという生徒が増加傾向にあることを実感している。
- ・ 地元の高校の入学者を確保するためには、手厚い支援が必要である。一戸高校は地域人材を育成してきた学校であり、このような学校の魅力向上に向けた支援をしていかなければならないと考えている。地域の生徒数が減少している状況から、高校再編はやむを得ないことを理解するものであるが、再編にあたっては、地域の実態を考慮するようお願いしたい。
- ・ 二戸地区には特別支援教育の核となる学校が必要であり、特別支援学校の設置についてはよろしくをお願いしたい。

【前田 二戸市立福岡中学校長（二戸地区校長会）】

- ・ 二戸地区には私立高校が設置されてないこともあり、県立高校の果たす役割は大きいものと感じている。生徒が義務教育を卒業し、自らの進路選択をしていくためには、地域の高校に様々な選択肢が必要となる。
- ・ 福岡工業高校と一戸高校は、専門分野を学ぶことができる魅力ある学校である。中学生への進路指導の一環として、高校の先生方には中学校に来ていただき、教育内容や学校生活等について説明していただき、このことから、中学生は高校への進学に夢や希望を抱いている。
- ・ 中学生は、自分の将来の進路に応じて福岡工業高校と一戸高校への進学意識を持っており、地域の中学校においては進路指導のすみ分けができていると感じている。両校ともに地域の人材育成に寄与していることから、今後も地域の学校として生徒の進路実現を目指していただきたい。

【県教委】

- ・ 後期計画の策定に向けて検討するにあたり、県内各地域の皆様からは、数合わせで学校統合を考えるべきではないという多くの意見をいただいております。県教育委員会としては、理念のあ

る統合案となるよう検討を重ねてきたところ。

- ・ 福岡高校は地域の進学校であり、その役割は守らなければならない。また、二戸地区の工業教育を守るために、一戸高校の各系列による学びと一体化させることで各専門分野が連携した学びを実現し、地域の産業教育の拠点校として、工業、農業、商業、福祉等の様々な学びを維持し、新たな魅力ある学校にしたいと考えており、このような考え方に基づく統合案であることを御理解いただきたい。
- ・ 福岡工業高校の校舎の新築については、前期計画期間前の耐震診断の結果に基づくものであり、校舎が立入禁止となったことから早急な対応が求められ、在籍する生徒の安全確保を優先して整備しているものである。

【藤原 二戸市長】

- ・ 今般、国においては普通科改革により、新しい学校の在り方についての検討が進められている。したがって、今後、普通高校についても、地域性を考慮した再編について検討が必要になるものと認識している。
- ・ 駅に隣接している福岡工業高校の周辺は、新たなまちづくりに向けて区画整理を進めているところであり、まちの新たな魅力をつくるためにも、地域の実情に合致した高校再編が重要となる。
- ・ 二戸地区にはアパレルや食品関連等、様々な産業が集積しており、そのような産業の即戦力となる人材育成が必要である。特に、福岡工業高校や一戸高校には、その役割について期待しているところであり、引き続き、学校配置については総合的な検討をお願いしたい。

【県教委】

- ・ 出席された会議構成員の皆様からは、地域の高校に対する想いについて感じたところ。いただいた御意見を踏まえ、今年度内に後期計画の策定を進めて参りたい。
- ・ 今後とも、本県教育の振興のために一層の御理解、御協力を賜るようお願い申し上げます。

後期計画の策定に向けた地域検討会議(第4回)【二戸ブロック】

出席者名簿

No	市町村等	氏名	所属・役職等	備考
1	二戸市	藤原 淳	二戸市長	
2		古舘 聖人	二戸市商工会 専務理事	
3		石倉 一伸	新岩手農業協同組合 理事	
4		野崎 芳宏	二戸市PTA連合会 会長	
5		鳩岡 矩雄	二戸市教育委員会 教育長	
6	軽米町	山本 賢一	軽米町長	
7		小野寺 祐治	㈱アイソニック軽米事業所 代表取締役	
8		菅原 寿悦	軽米町立PTA連合会 会長	
9		菅波 俊美	軽米町教育委員会 教育長	
10	九戸村	晴山 裕康	九戸村長	
11		藤館 卓弘	九戸村産業関係者代表(商業)	
12		岩淵 信義	九戸村教育委員会 教育長	
13	一戸町	田中 辰也	一戸町長	
14		瀧 博司	㈱一戸ファッションセンター 代表取締役社長	
15		山田 晃	一戸町PTA連合会 会長	
16		中嶋 敦	一戸町教育委員会 教育長	
17	地区中学校長代表	前田 稔	二戸地区校長会(二戸市立福岡中学校長)	

【オブザーバー】

No		氏名	所属・役職等	備考
18	県議会議員	五日市 王	岩手県議会議員	
19		工藤 大輔	岩手県議会議員	
20		山下 正勝	岩手県議会議員	
21	県立高等学校	金濱 千明	軽米高等学校長	
22		高橋 良一	伊保内高等学校長	
23		根反 馨	福岡高等学校長	
24		池田 明宏	福岡工業高等学校長	
25		上野 光久	一戸高等学校長	

【県教育委員会】

No		氏名	所属・役職等	備考
26	県教育委員会 事務局等	菅野 広紀	県北教育事務所長	
27		秋山 武	県北教育事務所主幹兼企画総務課長	
28		村田 賢	県北教育事務所教務課長	
29		三浦 英浩	県北教育事務所教務課主任指導主事	
30		坂本 真	県北教育事務所教務課指導主事	
31		梅津 久仁宏	教育次長	
32		木村 克則	学校調整課首席指導主事兼総括課長	
33		須川 和紀	学校教育課首席指導主事兼高校教育課長	
34		森田 竜平	学校調整課高校改革課長	
35		谷地 信治	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
36		市丸 成彦	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
37		小野寺 一浩	学校調整課高校改革担当主任指導主事	
38		女鹿 光介	学校調整課高校改革担当主査	